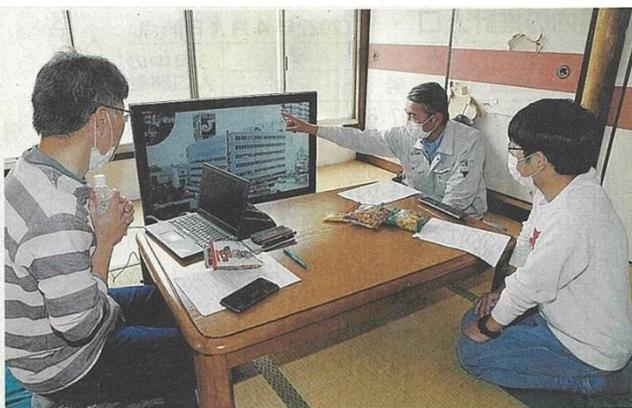


地元の歴史について説明する「すっきや加古川」の池田吉弘代表(中)＝基地ラボ



加古川市加古川町の寺家町と本町の歴史を学ぶ「『かこ』の礎音、未来にとどけ！かこがわ学講座編」が、古民家を改修した建物「基地ラボ」(加古川町寺家町)で開かれた。市民団体「すっきや加古川」代表で寺家町生まれの池田吉弘さん(64)＝同市野口町二屋＝が、地元民でしか知り得ない「ディープな歴史」などを解説した。(笠原次郎)

寺家町と本町の歴史深掘り

基地ラボで「かこがわ学講座編」

約90年前に建てられた旧加古川図書館の利活用を目指す団体「パク・パク・パーク」のメンバー、藤輪友宏さん(49)＝同市加古川町木村＝が企画。地元の歴史を深く知ってもらおうと、若い世代に参加を呼び掛けた。

学習会で池田さんは、隣接する寺家町と本町が1879年から10年間、分岸寺川を境に東の加古郡と西の印南郡という別々の郡に属していたと教えた。また、本町にある赤壁神社に伝わる化け猫伝説は、戦前に4回も映画化されるほど有名なエピソードだったと紹介した。

参加した加古川南高校3年の谷本健悟さん(17)は、「JR加古川駅南側のレトロな屋根が何なのか気になっている」と質問。池田さんは「旧駅舎をイメージして作ったもの」と答へ、「旧

駅舎の建材に使われたレールが同駅西側に展示されており、これが駅舎の唯一の名残」と解説した。

同講座は毎月第4土曜(7～9月は日曜)の午前10時～正午に開催。参加費500円。希望者はメール(PakuPakuPark675@gmail.com)まで申し込む。